

いこいの森

No.11

〒241-0811 横浜市旭区矢指町1197-1 電話 045-366-1111



総合相談部部長
矢崎 俊二

この度、平成19年4月より総合相談部長を拝命いたしました。西部病院総合相談部には平成11年4月から平成13年3月までと、平成17年10月から平成19年3月まで総合相談部副部長として勤務していましたが、新たな気持ちで、当院で診療を受けられる患者さまとそのご家族のみなさまのより快適な受療と介護のサポートに貢献したいと思います。総合相談部の業務は多岐にわたっておりまして、ソーシャルワーク、ホームケア、地域医療連携係、患者さま相談窓口、および外来インフォメーション係で構成されています。総合相談部の役割にご理解をいただき、みなさまのお役に立てますように、活動の概略をご紹介したいと思います。

ソーシャルワークは、入院患者さまの受診・受療援助、退院援助、経済的問題援助、療養上の心理的・社会的問題の解決・調整援助、社会保障制度・福祉制度などの活用援助、他機関の情報提供、人権擁護相談などを行っています。相談件数の総数は毎月700件以上です。ホームケアは、入院患者さまの退院援助、訪問看護、在宅療養患者さまの日常生活用具・介護用具などの紹介、日常生活行動援助、医療処置・衛生材料・機器の援助、介護者への健康管理・精神的援助、往診医の紹介、その他の院外・院内の連絡調整などを行っています。訪問看護は毎月80件ほどあります。ホームケアの活動地域は、当院のある横浜市旭区の他に、瀬谷区、泉区、保土ヶ谷区、緑区、戸塚区、さらに大和市と広範囲です。地域医療連携係は、主に他の医療機関との病診連携のパイプ役を行っています。紹介患者さまの受付、院内各部署との連絡調整、地域の医療機関のご案内、他の医療機関との連絡および情報交換、外来担当医表等の送付などを行っています。当院への紹介患者さまは毎月1,200人以上あり、増加傾向にあります。連携医療機関の地域別構成比では旭区が約35%、瀬谷区が約20%、泉区が約5.4%、他の横浜市が約17%、大和市が約5.4%などで、旭区と瀬谷区の両者で過半数を占めています。当院が地域密着型の中核病院としての役割を果たせるように、病診連携の強化に努めたいと思います。患者さま相談窓口は、外来および入院患者さまとご家族のみなさまからの診療に関するご意見や苦情の相談に応じています。みなさまからのご意見をいただき、診療の改善と充実に反映させたいと思います。また、外来入り口にインフォメーションの場を設けており、看護師と事務がインフォメーション係として、新しく来院された患者さまがすみやかにご希望の診療が受けられますように案内しております。曜日によっては医師も相談に応じています。院内の施設案内、落し物等の確認なども行っていますので、お気軽に声をかけていただきたいと思います。

その他に、平成9年より名称が「ボランティア会ランパス」となったボランティア会の皆様のご協力もいただいております。今年は、小児病棟でピエロショウを開催していただきました。

総合相談部の業務が、患者さまとご家族のみなさまの身近なオアシスになることを願って努力したいと思いますので、ご支援、ご協力のほど、宜しくお願ひ申し上げます。



● ● ● 看護部 ● ● ● 看護部長（副院長） 上谷いつ子



今回は、患者さまとご家族の方に最も近いベッドサイドで活動しております。看護部門の紹介をさせていただきます。看護職員は、総勢388名で病院職員全体のおよそ6割を占めています。病棟、センター系、中央部門など19部署に配置しており、それぞれの専門領域に応じた幅広い看護の提供に努力しています。病院の理念の『生命の尊厳』を中心におき「人間としての尊厳を守り、質の高い看護を提供し、健康的な生活を支援します」を看護部の理念として掲げ、病気の回復促進に向けて「その人らしい生活」の視点を大切にしながら、医療・看護を取り巻く環境のめまぐるしい変化に対応すべく日々研鑽を重ねております。

人材育成にも力を注いでおります。さまざまな病態や状況に対応できるゼネラリストは勿論のこと、ある特定領域の専門性の高い看護が提供できるスペシャリストの育成にも力を注いでおります。がん化学療法看護や創傷・オストミー・失禁（WOC）看護、重症集中ケア、新生児重症集中ケアなど日本看護協会認定の認定看護師、さらに呼吸療法認定士や糖尿病療養指導士、NST（栄養サポートチーム）看護師など学会認定の看護師、その他にフット・ケア、アロマセラピー・インストラクターなどの資格を持つ看護師も増えております。今年度は感染管理、ホスピス・ケアの認定看護師が誕生予定です。また看護サービス全般のマネジメントを行う看護師長の7割は、看護管理コース（日本看護協会認定コース）受講を修了しております。一人ひとりの能力、得意なことを十分発揮でき、働きがい・やりがいが感じられるような体作りを心がけております。

今後もみなさまの率直なご意見をいただきながら、看護師の持てる力を十分発揮し、「その人らしさ」を重視した患者さま中心の医療・看護を提供したいと考えておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。表は、各部署の活動の様子の一部です。師長・主任・看護スタッフが記載したものを短縮しておりますので、何かご不明な点がございましたら病院職員にお尋ね下さい。

部署	概要	活動内容
5階北病棟 (52床)	呼吸器内科、腎臓・高血圧内科、血液腫瘍内科	がん化学療法認定看護師を含む22名の看護スタッフとクリーンルームを完備しており、化学療法のほか、同種造血幹細胞移植など最先端の医療を提供しています。
5階南病棟 (54床)	内分泌代謝科、総合診療科、呼吸器内科、リウマチ膠原病内科、眼科	「活気あふれる」5科混合病棟です。多くの患者さまと出会えることは魅力です。さまざまな健康レベルや多岐にわたる疾患をもつ患者さまへの看護を提供するために、幅広い知識・技術を習得すべく日々努力しています。また患者さまにあわせた生活指導を目指しています。
4階北病棟 (52床)	一般外科(主に消化器外科、乳腺外科)、形成外科、皮膚科	周手術期の患者さまはますます高齢化しています。中でもストーマ造設患者さまは毎年増加し、創傷・オストミー・失禁(WOC)看護認定看護師との連携を図りつつ、家族指導を含む個別性のある看護を目指しています。終末期看護では、緩和ケアや在宅療養への支援など医師、薬剤師、総合相談部、外来等と連携し、チーム医療に取り組んでいます。
4階南病棟 (54床)	消化器内科、泌尿器科、形成外科、皮膚科	急性期から終末期まで、あらゆる病期の患者さまの看護に携わっています。その人の生に関わるという大切な使命を真摯にうけとめ、患者さま一人ひとりを大切に支援することを私たちの誇りにしています。
脳神経センター (52床)	脳神経外科、神経内科	患者さまの多くが麻痺や高次脳機能障害をお持ちです。機能を最大限生かしながら、その人らしく在宅生活を送っていただけるよう、ご家族と共に在宅療養にむけて日々奮闘中です。
3階南病棟 (54床)	整形外科、耳鼻科	筋肉・関節・骨格系の障害により生活行動レベルの低下を、周手術期看護を中心に、回復促進に向けて取り組んでいます。また耳鼻咽喉科では、クリニカル・パスを作成して、短期間の入院で安心して治療を受けていただけるように努めています。ナイチンゲールの3重の関心である、知的関心・人間的関心・実践的技術的関心を大切に日々研鑽しています。
心臓血管センター (37床)	循環器内科、心臓血管外科	狭心症や心筋梗塞、胸腹部大動脈瘤、弁膜症などの患者さまが、安心して検査、治療、手術を受けていただけるよう、思いやりと笑顔で存在感のある看護を目指しています。退院後の生活に向けて患者さまと話し合い生活指導に力を入れています。

部署	概 要	活 動 内 容
2階南病棟 (42床)	小児全科	小児全科を対象に0歳から15歳までのお子さまが入院しています。入院体験が子どもにとって辛い体験に終わらせないこと、成長に役立つ体験となることを目標にしています。
救命救急 センター (40床)	救命外来、ICU、 HCU	第3次救急医療施設、災害拠点病院としての機能を果すべく、エビデンス(科学的根拠)に基づいた看護、チーム医療を大切にしています。患者さまの思いに寄り添い、急性期における「その人らしさ」を大切にした看護を目指しています。
周産期 センター (47床)	母性部門： 婦人科、産科	周産期医療の基幹病院として24時間体制で母体搬送を受け入れています。国内で最初にカンガルーケアを導入し、母乳育児を推進しています(母乳充足率：年平均96%)。女性に優しい、赤ちゃんと優しい看護を大切にしています。
周産期 センター (30床)	新生児部門： NICU、NCU	周産期医療の基幹病院として24時間体制で新生児(母体も同時に)搬送を受け入れています。400g台の超低出生体重児から様々な段階のお子さまに至るまでの成長発達を助けることが大事な看護です。責任を持って継続した質の高い看護を実践します。
中央手術室	手術室6室	14診療科の手術を、看護師21名、麻酔科医師7名、各診療科医師で行っています。年間手術件数は3,298件(18年度)で徐々に増加傾向です。チームワークをモットーに安全を守り、患者さまが安心して手術に望めるような看護を提供しています。
画像診断部	放射線科：主にCT、 MRI、超音波、核医学検査、透視 血管撮影	放射線領域におけるIVR(血管形成、ドレナージ、生検、心臓カテーテルなど)看護に力を注いでいます。大切にしていることは、患者さまへのオリエンテーションの徹底とインフォームド・コンセント、継続した看護から安心して検査・治療を受けられる環境の整備です。専門的知識技術を高め、安全な看護の提供に努力しています。
外来・健康管理部	22の診療科、外来化 学療法室、採血室、 健康管理部	外来部門は多岐にわたりますので、看護体制を3チームに構成し、地域の皆様に安心・安全・満足を提供できるよう努力しています。在院日数の短縮により医療ニーズの高い患者さまが外来通院されています。病棟と外来との情報交換を重視し、とぎれのない継続看護により、患者さまの在宅療養支援をめざしています。
透析療法部	血液透析(13床)	血液透析、腹膜透析、血漿交換療法などの血液浄化療法を行います。医師4名、技師7名、看護師5名、クラーク1名、助手2名が従事しております。患者さまにとって安全・安楽な透析を受けていただけるよう、より良いケアの提供を目指します。患者さまの個別性を重視した生活指導を目的に病棟ラウンドを実施しています。
内視鏡部	上部・下部消化管検 査、気管支鏡検査、 胃ろう造設など	内視鏡による検査、治療、看護を、専門的な知識・技術をもとにチーム一丸となって提供しています。患者さまの苦痛・不安を最小限にして安心して内視鏡を受けていただけるよう、医療チームとの連携と心からの笑顔を大切にしています。
総合相談部	地域医療連携係、 ソーシャルワーカ係、 ホームケア係(看護 師)	ホームケア係では、患者さま・ご家族が安心してご自宅での生活が迎えられるように、医師・看護師をはじめ多職種と連携して退院調整や退院支援を行い、在宅療養にむけて地域への橋渡しの役割をはたすべく努力しています。顔の見える地域連携をモットーに専用自動車・自転車で訪問看護を行っています。
医療安全管理 対策室	医師、看護師(医療 安全管理者)、事務	病院における医療安全対策と、患者さま及び職員の安全確保の推進をめざし、平成15年5月に設置致しました。看護師長が医療安全管理者として、各部署のリスクマネジャーと連携をとり、医療事故防止に取り組んでいます。
治験管理室	医師、薬剤師、看護 師、事務	治験を受ける患者さまの事前準備、治験中の観察と対応など、安心して治験を受けていただけるようにチーム医療をこころがけています。
看護部管理 室	看護部長、副部長、 師長、夜勤師長、 看護師、事務	患者さまから安心・信頼していただける安全で質の高い看護を提供するために、看護業務管理、安全管理、病床管理、物品管理など看護サービス全般に関すること、看護職員の人事・労務管理、人材育成・キャリア開発のための教育などを行っています。「搖るぎない信念とたゆみない努力」をモットーに、「愛と喜びをもってその人らしさを支える看護」を目指しています。

ボランティア会ランパス

神奈川県県民功労者表彰受賞祝賀会

「ボランティア会ランパス」が平成19年度神奈川県県民功労者表彰を6月7日(木)に受賞をされました。その受賞を祝って6月26日(火)に祝賀会が当院2階会議室で開催されました。

ボランティア会ランパスは現在約75名の方が各グループに分かれ、当院でボランティア活動をしています。女性はピンクのエプロン、男性はブルーのエプロンがユニフォームです。



・神奈川県県民功労者表彰 (ボランタリー活動)

多年にわたり西部病院等医療現場の中で不安や苦しみを抱える患者や家族を支援するため、移動図書活動や病棟活動などに献身的に取り組み優れた成果をあげました。



理 念

「生命の尊厳」を重んじ、常に病める人の声に耳を傾け、癒すこと

病院の基本方針

1. 患者さまを中心として、質の高いかつ安全な医療サービスを提供します。
2. 地域中核病院として、他の関係機関との連携を促進し、地域のみなさまの健康と福祉の向上に貢献します。
3. 救命救急センター・周産期センターを中心に、救急医療および災害医療の拠点としての役割を果たします。
4. 医科大学病院として教育ならびに研究を推進し、人間性豊かな人材の育成に努めます。
5. 全職員は、医療の「安全性、公平・公正性および透明性」をもって職務を遂行します。
6. 全職員は、常に業務の改善意識を持ち経営の健全化に努めます。



平成19年7月25日発行

発行：聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院広報委員会・総合相談部 〒241-0811 横浜市旭区矢指町1197-1 TEL：045-366-1111
企画・制作：株式会社 教育広報社 〒102-0075 東京都千代田区三番町30番地2 財団法人 大蔵財務協会ビル TEL：03-3263-9926